

都市工学科の緊急施策について

入試志願者数の激減を、学科存続の危機ととらえ、以下の施策に全力で取り組む。入学志願者状況に改善が見られない場合には、学生定員・教職員定員の削減、学科名称及び内容の変更、建築学科あるいはその他の学科との再編も検討することになる。そのような覚悟をもって、1年間の緊急対策を実施してゆく。

1. 原因を正確に把握する。

- (1) 学科のアピールが不足している。
- (2) 特徴が明確でない。
- (3) 昨年度のセンター入試の最低合格ラインが65%となっており、過去3年間の60%から上がった。
- (4) 工学院大学の建築学部、「隠れ建築」が流れた？（未確認）

2. 学科の人材育成の目標

- (1) 工学の基礎力及び、シビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的課題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成する。
- (2) 海外プロジェクトで活躍できる人材を育成する。
- (3) その他、2011年度前期末までに本学科のより詳細な将来構想を取りまとめる。

3. 教職員の活性化のための施策

- (1) 教育改善活動の一層の活性化：JABEEの中間審査にあわせて実施するが、個々の問題は大きくないと考えている。
- (2) 研究活動の一層の活性化：吉川プロジェクト後の重点プロジェクト、研究協議会設置を構想など

4. 広報効果を高める施策

- (1) ホームページを使った広報（動画、静止画を多用したコンテンツ配信）
 - 学科OBなど「注目するひと」の動画を配信(定期的)
 - 中学生・高校生向けのコンテンツ配信
 - 専任教員の動画配信(定期的)
 - 客員教授・兼任教授などの活躍紹介(定期的)
 - 専門性のあるコンテンツの配信
 - 就職の強さをアピールするコンテンツ配信
 - 中国語・韓国語・英語などのコンテンツ配信
 - 広報紙ですでに利用したコンテンツ再利用
- (2) 学科独自パンフレット等の作成・配布

5. 入試について

- (1) AO入試などの範囲でより特徴ある募集の検討
- (2) 一般高校・付属高校・予備校などへの独自パンフレット作成配布
- (3) 一般高校・付属高校・予備校などへの出張授業などの活発化

6. 人事について

- (1) 海外プロジェクトで活躍できる人材の育成および、パンフレット作成、教科書作成などの緊急施策のため、時限的に教育講師を採用したい。
- (2) 実務経験豊富な教員団の構成。特に海外事情に精通し、実践経験豊富な教員、及び国内の建設事情に精通し、国家施策を含む公共政策の実務家、を中核として、プロジェクトチームを構成する必要がある。教職員定員は現在超過の状態であるが、センター入試受験者半減を含む厳しい状況に対して、即材に対応するための施策であり、是非ともお認めいただきたい。

7. 運営方針

都市工学科の教職員は、

- (1) 不断の教育改善に取り組む、
- (2) 実務とのかかわりを常に意識し、総合性を視野に入れた研究とそれを通じた学生の教育を行う、
- (3) 学外組織・学外専門家との連携を通して実務的・総合的教育研究を推進すると共に、社会に貢献する、
- (4) 教育と研究の両面で教職員間の連携を効果的に行う、
- (5) 別に定める学科・専攻の将来構想ができるだけ円滑に達成できるように各自の役割を遂行する。

海外プロジェクトマネジメントに関する教育の実施に関する提案

1. 背景

政府の新成長戦略の柱のひとつに、建設から管理運営までのインフラ輸出展開が位置づけられた。また、建設産業に課された国内の最重要課題は、整備された社会基盤の維持管理更新であり、新規建設プロジェクトの多くは、今後海外に求めなければならない。しかし、建設業界の海外受注は、その収益悪化・リスク回避のため減少傾向にある。

世界に誇れる建設技術を海外において活用することは、我が国の将来にとって重要な国際貢献である。持続可能な貢献のため、建設技術及びマネジメント技術を併せ持ち、コミュニケーション力・交渉力などをもって海外で活躍する意欲のある人材を育成してゆくことは大学の社会的使命である。

また、機械・電気等の建設以外の分野においても、我が国の優れた技術を海外で展開することは、我が国の重要な国際貢献であるが、国際的な市場の中で継続的に活躍できる人材の育成が重要である。

2. 目的

若手エンジニア及び、本学・他大学の学生に対して、国際市場における我が国エンジニアの将来の活躍のために必須の知識の提供、国際市場の現状と展望、これまでの国際市場での経験を踏まえた今後への教訓、みずから学習する意欲と能力などを、本講義を通じて植えつけてゆく。特に、本学在生学生については、本講義及び関連する他の講義等の取得に対して、コースを認定する。

3. 施策

1) 教育講師の雇用

専門分野編成審査委員会において、余剰定員のうち教育講師 1 名分 (0.3) を本施策のために利用することを提案する。この定員は、学長預かりの定員とするが、任期を 2 年であるが、最長でも 4 年を超えないこととする。

2) 経費

- 武蔵工業会・関博理事長及び、緑土会・松下正勝会長（武蔵工業会副理事長）より、協力の内諾を得ている。
- 海外事業に関わる大学の講義・講演等の価値を認める企業からの協賛
- 学長裁量費の申請

4. その他

1) 在学生のためのカリキュラム[国際エンジニアリング&マネジメントコース]

基幹科目を必修として設置、英語の TOEIC 達成レベルを設定、第二外国語の習得、海外における研修の実施、海外事業に関する社会人・学生を対象とした講習の実施など

2) 社会人のためのカリキュラム

海外プロジェクト・マネジメントコースの構想

1. 目的

国際市場における我が国エンジニアの将来の活躍のために必須の知識の提供、国際市場の現状と展望、これまでの国際市場での経験を踏まえた今後への教訓、みずから学習する意欲と能力などをもつ学生を育成する。

2. 概要

既存の主コース・副コース制を活用し、以下に示す一定の科目習得により副コースを、関連する卒業論文とあわせて主コースを認定する。

3. 詳細

- (1) 必修科目：海外エンジニアリング概論（2単位、工学教養）
- (2) 必修選択科目：海外エンジニアリング特別講義（1）、（2）（各2単位、工学教養）
- (3) 選択科目：プロジェクトマネジメント(経営)、プロジェクトマネジメントシステム（都市）、インフラマネジメント（都市）、Global 経営（経営）などから選択(既存の専門科目を活用、ただし、海外エンジニアリングの要素を盛り込む。)
- (4) 外国語：一般学生の必修科目のほかに、指定する英語科目及び第二外国語科目（英語については TOEIC の得点による減免を含む。）（4単位）
- (5) 海外研修：既存の海外研修に関連学科の専門教員が参加、新規の研修立ち上げ（ベトナム、カンボジアなど）（各1単位）
- (6) 合計14単位でコース認定

学長コメント 1月26日

他大学の土木系学科は減っていない。

他大学の「土木」のつく学科は増えている。

「都市」が分かりにくくなっている。 都市大学、都市生活学部ができて。

建築との差別化がはかかれていないかも。

次年度、電車の広告に出そう。

「海外」で仕事をしたい若者など、内容によって、潜在的な需要があると思うが、それが十分に発掘されていないのではないか。

「土木」のつく名称、例えば、「都市土木工学科」、「土木工学科」など検討してはどうか。

海外建設プロジェクトに関する講義など、目玉になるのではないかと。多様な外国語の取得とからめて。

その他にも打ち出すネタを探して、あるいは作りだしてゆく。

オーストラリア・カーティス大学との交流に人を出してほしい。

まとめると

打ち出すネタの発掘や創造をしてゆくことが大事

都市大学の中でのプレゼンスを高めるために何をすればよいか

学科名称について検討してはどうか

吉川教授提案 1月26日

皆川先生、都市工学科各位：

急遽、以下の3つを提案します。

1. WEBコンテンツ その1：高校生／中学生向けのコーナーの特設：
2. (『都市工学/Civil Engineer を目指す学生諸君！！』(仮称))
3. ・OB/OGの足跡(キャリアパス)、
4. 各先生の紹介 <http://www.eng.tcu.ac.jp/researcher/index.html>

現場見学レポート：

昨日栗原先生からのメールにあったような感じにて。主として、学生／院生が画像入り報告書作成)

2. WE bコンテンツ その2:

動画／静止画による都市工学の説明：

「空から土木」など、複数のコンテンツの統合コーナーの新設：

この他に：

Project: Seeing Is Believing 『エンジニアリング系動画/静止画サイト』

<http://www.evo.co.jp/musashi/>

<http://c-pc8.civil.musashi-tech.ac.jp/RC/digital/html/frame.htm>

3. 重点推進研究、終了後

次年度9月から、研究協議会の設立を提案したい：

名称：都市基盤施設の安心安全と環境保全に関する研究協議会

または、都市基盤施設の安心安全と維持管理に関する研究協議会

構成：外部：事業体、企業、NPO、内部：教員、学生、

活動内容：共同研究、セミナー/tutorial, 学内外の院生／学部生の教育と研究

一般市民への啓蒙活動

**条件が揃えば、センターとしての学内応募することも可能

**個人的には、「耐震設計と災害リスク」に特化したいのですが、都市工学科／建築学科のより多くの先生方が参画するためには、このような、枠組みが必要では。

(吉田@東京都市大学より)

大変憂慮すべき数字ですね.

HP だけの問題とも思えませんが, HP 改善はいずれにせよ必要ですね.

私の意見としては

今年度早急に:現状の HP の古くなっている部分の修正 +

来年度:HP 委員会を立ち上げる

1)学生委員(院生)も入れた委員会として最低でも年1回更新する.

2)HP 確認作業を教室会議あるいは教育改善年間行事の一つに入れる.

3)高校生向きの PR サイトの企画・立ち上げ

さらに同意が得られれば

4)各研究室の HP を充実して全て学科 HP へリンクする.